



令和4年度 大莞小学校重点目標 考える子どもの育成

# ゆうかり

大木町立大莞小学校  
三潞郡大木町奥牟田 250  
TEL32-1504 FAX75-8163  
Email:[ooisyo@kumin.ne.jp](mailto:ooisyo@kumin.ne.jp)

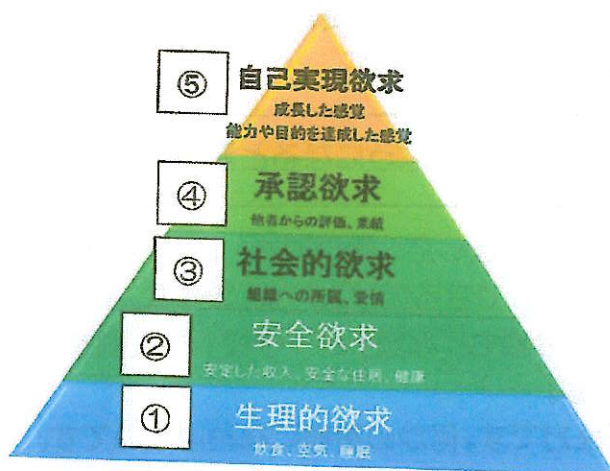
学校だより No.4 令和4年 5月 10日 校長 石橋 修

## 「学校」「家庭」が協力して子育てをする理由

「親と教師が協力して・・・」「地域と学校と家庭が連携して・・・」などの言葉を一度は聞かれたことがあるのではないのでしょうか？ しかし、なぜ、協力することが子どもの健やかな成長につながるのかと、尋ねられると、上手に答えられなくなってしまうものです。

今回は「子どもの健やかな成長を促すために親と教師が協力する必要性」について私見（マズローの法則と関係づけて）を述べさせていただこうと思います。あくまでも一つの考え方です。何かの参考になれば幸いです。

マズローの法則とは、人間の欲求は5段階のピラミッドのように構成されているとする心理学理論です。アメリカの心理学者、アブラハム・マズロー（1908～1970）が考案したもので、「マズローの欲求五段階説」「自己実現理論」などと呼ばれることもあります。マズローの法則によれば、人間の欲求には「生理的欲求」「安全の欲求」「社会的欲求（所属と愛の欲求）」「承認欲求」「自己実現の欲求」の5段階があるとされています。そして、これら5つの欲求にはピラミッド状の序列があり、「低次の欲求が満たされることに」、もう1つ上の欲求をもつようになると言われています。（左下図参照）



①生理的欲求・・・ピラミッドの一番下の段にあたる、最も基本的な欲求が「生理的欲求」です。生理的欲求は、生命活動を維持するために不可欠な、必要最低限の欲求を指します。食欲・睡眠欲などです。

②安全の欲求・・・身体的に安全で安定した環境で暮らしたいという欲求を指します。安全、安心が確保されない環境では、子どもの心理的不安定さが増すこととなります。

③社会的欲求・・・家族や学級など、何らかの社会集団に所属して安心感を得たいという欲求を指します。所属と愛の欲求と呼ばれることもあります。生理的欲求・安全の欲求が満たされていたとしても、話し相手がなく、自分を受け入れてくれる人もいないような孤独な生活では、自分を高めようとする意欲は沸いてきません。物質的満足だけでなく、自分を受け入れてくれる親密な他者の存在が不可欠である、ということです。

④承認の欲求・・・何らかの社会集団に所属し、社会的欲求が満たされていたとしても、まだ次のレベルの欲求が現れます。「承認欲求」です。承認欲求は、単に集団に所属するだけでなく、所属する集団の中で高く評価されたい、自分の能力を認められたい、という欲求です。これは、子どもだけでなく大人でも言えることです。

⑤自己実現の欲求・・・以上①～④のすべての欲求が満たされると、自分はこんなことを成し遂げたい、自分らしく生きていきたいという欲求が出てきます。「もっと、～なことを頑張ってみたい」「～な自分になってみたい」等の自己実現の欲求は、①～④の欲求が満たされたときに、子どもの姿に現れてきます。

子育てをしていく上で、親なら誰しも我が子の健やかな成長を願うものです。それは教師も同じです。子どもがもっている力・可能性を引き出し、更に十分に伸ばしてやりたい、また、自分に自信をもたせたいと思うものです。時に、その思いが強ければ強いほど、子どもに対して「口や手」が先に出てしまうものです。しかし、なかなか子どもは、思ったようには育ちません。



今回紹介させていただいた「マズローの欲求五段階説」をもとに考えると、「①生理的欲求」「②安全の欲求」については各家庭で、「③社会的欲求」「④承認の欲求」については、家庭と学校で、「⑤自己実現の欲求」は主として学校で担うことが多いような気がします。

ここに「子どもの健やかな成長を促すために親と教師が協力する必要性」が見えてきます。学校の職員研修でも、この理論について学習会を行いました。特に、

「低次の欲求が満たされるごとに」もう一つ上の欲求をもつようになると言われている。

ことについては、よくよく考えておく必要があると思いました。学校でも、子どもの様子を見ながら「どの段階の欲求」を求めているかを見極め、できるだけよりよい対応しようと心がけています。子ども達の健やかな成長のために、今後も「家庭」と「学校」の役割を意識しながら子ども達に接することができればと思います。

以上、述べてきました私見はあくまでも一つの考え方です。何かの参考になれば幸いです。ありがとうございました。